

平成22年度秋の総会の開催(11/24)

平成22年11月24日(水)16時~
高知会館

参加者数 講演会55名、交流会36名

本年度の秋の総会は、(社)日本技術士会四国支部の設立記念として、四国支部主催の平成22年度第2回CPDセミナー「四国支部設立記念 高知講演会」も兼ねて開催された。また、坂本龍馬記念館の森館長による講演もあったことから、高知新聞に一般聴講者の募集案内を掲載したところ、数名の聴講者があった。

講演会に先立って、右城代表幹事より、「四国支部は四国の大地に降った一滴の雨粒が小川となるように県技術士会ができ、それが集まって日本技術士会四国支部という大河が誕生した。」「今は、大きな時代の節目に来ており、この混迷した時代を変えるのは技術であり、技術士である。」と挨拶があった。



右城代表幹事の挨拶

また、事務局から高知県技術士会のホームページを開設した旨報告があった。

講演会は、「日本技術士会における防災支援活動について」と題して、(社)日本技術士会四国支部防災委員の和田雅和会員、「明治維新と高知」と題して、高知県立坂本龍馬記念館の森館長より講演を頂いた。

「日本技術士会における防災支援活動について」(社)日本技術士会四国支部防災委員 和田雅和

和田委員からは、防災委員会の主な活動として、災害被害を軽減する活動への支援、地域コミュニティ防災への支援等を行っていく

ことの説明があり、その後に香川県技術士会の防災活動について紹介された。その主な活動として、小学校での防災学習・防災マップづくり、防災訓練、地域防災リーダー育成セミナー等について説明があった。その中で小学生との防災マップづくりにおいて専門家の視点から危険個所と子供たちの視点の危険個所に違いがあり参考になったこと、防災訓練については日頃の訓練が大切であり、訓練のための事前準備も大変重要と強調された。また、今後、防災活動を広げていくためにも、四国支部防災委員会が窓口となって、四県の技術士会にも防災委員会をつくっていくことが必要であるとの話があった。



和田委員の講演

「明治維新と高知」高知県立坂本龍馬記念館 館長 森健志郎

坂本龍馬記念館の森館長には、大河ドラマ「龍馬伝」効果により、龍馬ブームの中、龍馬にまつわる最新の情報やあまり知られていない話までたっぷり1時間講演して頂いた。

まずはその人気ぶりとして、坂本龍馬記念館の年間平均入館者が14万人であったのが去年24万人、今年は「龍馬伝」が始った1月~10月で既に38万人が訪れているとのこと。年間平均入館者数としては、個人記念館では宮沢賢治記念館に次いで2番目とのこと(残念?)。今年8月に愛媛の方から龍馬が高杉晋作からもらったピストル(ミス・アポ・ウェッソ)と同型のものを譲り受け(松山東署経由)坂本記念館に展示していたが、高知県警より、博物館等の拳銃の展示は公務員が管理する場合に限って認められており、今回は銃刀法違

反に当たるとのこととで展示が取りやめになった。この事態に国家公安委員長が動き、早急に展示可能となるように警察庁に指示し、学芸員が臨時の県職員となることで展示が再開された。「龍馬伝」が放送された翌日の月曜日には、内容がウソであるとの抗議の電話が殺到した。裏話として、1日に多くの観光バスがやってきたため、副館長はバス整理が上手になった話。龍馬を知るためには、龍馬の書いた手紙(140通)を読むことであり、特に姉乙女に宛てた手紙(20通)を読むことが本当の龍馬がわかる。勝海舟との出会いが龍馬を大きく変え、海舟の根本の思想である「公平」の影響受け、龍馬の哲学である「自由と平等」が生まれた。台湾の李登輝元総統が龍馬記念館を訪れた際には、「龍馬は私心なく日本のため、人のために命をかけたが、今の日本にはそういう議員がいるのか」と話された。大の龍馬ファンであるソフトバンク社長の孫正義氏が、「龍馬伝」を見てポロ泣きする話。広島の子供の話(発想)で、もし龍馬が生きていたなら、戊辰戦争がなく、軍国主義もなく、日清・日露戦争もなく、広島や長崎の原爆もなかったらという話も印象に残った。



森館長の講演

以上のように興味深い話が盛りだくさんで、また、質疑応答も活発で、村山顧問からは「龍馬の話で初めて感動しました。ありがとうございました。」という言葉があったように講演会は大いに盛り上がり、あっという間に1時間が過ぎた。また、大勢の参加者から、この

続きの話を聞きたいので、また講演をお願いしたいとの声が上がった。



講演を熱心に聞き入る聴講者



沢山あった会場からの質問

交流会

四国支部の役員、新入会員(奥田之宏氏(株)四国トライ)紹介後、村山保顧問の乾杯の音頭で交流会が始まった。

(社)日本技術士会の会員と初めての合同の懇親会とのことで、いつも以上に盛り上がりを見せた。TPPの話題提供のもと、山本副代表幹事の中締めで閉会した。



総務委員長栗本氏



事業委員長本條氏



村山保顧問による乾杯



交流会の様子